



ピア・サポート『KGUでインスタ映え』企画 優勝作品



神戸学院大学 FD ニュースレターの発行に向けて

全学教育推進機構長 塩出 省吾

このニュースレターはしばらく発行していませんでしたが、FD活動を停止していたわけではなく、活動としては各学部、各研究科を含む全学をあげての三つのポリシーの策定も済ませ教育力の向上に向けた取り組みを行ってきました。具体的には、9月に淡路夢舞台国際会議場で開催する恒例のFDワークショップにおいては、2016年度には愛媛大学の学長特別補佐小林直人教授を迎えて「カリキュラム・マップの作成」、2017年度には大阪大学全学教育推進機構の佐藤浩章准教授を迎えて「学修成果可視化のためのカリキュラム評価について」と全学部の教員に向けたワークショップを実施しました。

「18歳人口の減少」および「就業構造の転換」という環境変化に対して、大学としては自ら改革や改善を推進していく必要があります。第3期認証評価では内部質保証が新たな重点評価項目として追加されました。「内部質保証の実質化」においては「学修成果の可視化」や改革に意欲的な組織風土の醸成が必要で、それが全学的に機能していること

が重要です。「学修成果の可視化」には当然「教育目標の明確化」が一番重要です。これがしっかり定まっていなくて「どのように評価するか」が意味のないものになるので、しっかりと定めることが成功するための必要条件です。その上でIRを用いて測定データとして学生の成長を見れば、改革や改善の糸口を見出すことができるでしょう。

その他の活動として、教員向けFD講演会も開催し、各学部・各研究科および大学の運営に携わる教職員を対象とするFDトップセミナーも開催しています。これらの講演会やセミナーを通して教育の現場にいる教職員が自ら改善・改革をご支援ができればと思っております。また、FD委員会を通じて各学部や各研究科のFD活動のご支援もしてまいりました。学内においては教員の意識も変化してきており、今後も引き続き活発なFD活動を期待してニュースレターでお知らせを配信できればと思います。



2017年度神戸学院大学FDトップセミナーを開催しました

神戸学院大学ポートアイランドキャンパス大会議室にて2017年7月13日（木）、2017年度神戸学院大学FDトップセミナー「学修成果の可視化のために、FD/SD/IRをどう考えるか」を開催しました。

全学教育推進機構では、昨年以來、教育基盤の再構築を急務の課題として取り組んでまいりました。昨年4月より法制化された3つのポリシーの策定と公表を行い、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの整合性・体系性や順次性を検証するための履修系統図（カリキュラム・マップ）の作成を行ってきました。さらに学修成果を可視化できるよう、学部のディプロマ・ポリシーをベースとしたルーブリックの作成を進め、この課題に全学を挙げて取り組んでいく予定です。

講師として、愛媛大学の小林直人先生をお招きいたしました。小林先生は愛媛大学学長特別補佐、教育・学生支援機構 副機構長、教育企画室長として、愛媛大学内の教育改革の推進責任者であるほか、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）でも、中心的に活動されておられます。今回は本学学長、副学長等、大学執行部の方を対象に、ご講演いただきました。

愛媛大学での具体的な事例や数値を用いて、評価指標の設定や、入試に対するエビデンスの収集・判断、「大学ランキング」の使い方、次の入試のための広報戦略など、様々な観点から学修成果可視化のための知識をご教示いただきました。

事後アンケートより、参加者からは「事例に則った説明で説得力があった」「IRの重要性を理解できた」などの意見を頂戴しました。本学の学修成果可視化への構築に向けて力強いエールをいただき、大変実りの多いトップセミナーでした。



2017年度神戸学院大学FDワークショップを開催しました

2017年9月15日（金）に、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場で2017年度神戸学院大学FDワークショップ「学修成果可視化のためのカリキュラム評価について」を開催しました。

講師として、教育の質保証体制の構築課題について第一人者である、大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授の佐藤浩章先生をお迎えし、「カリキュラム評価の意義」や「カリキュラム評価の基本的視点」などについてご講演いただきました。さらに、午後からは学部ごとにグループとなり、「カリキュラム・アセスメント・チェックリストの作成ワーク」や「カリキュラム・ルーブリックの作成ワーク」といった全員参加型のワークショップを行いました。ワーク終了後には、他学部・他学科の成果物についてポスター発表を行い、相互ブラッシュアップを行いました。当日は残暑の厳しい中、学部長やFD委員会の方をはじめ、55名の参加をいただき、ワークショップも熱い議論に湧きました。

事後アンケートでは参加者から「現状の問題点が浮き彫りになった」「学部の理念・体制について改めて考える良い機会であった」などのご意見を頂戴いたしました。午後いっぱいを使ってのワークショップは、長丁場ではございましたが、たいへん密度の濃い情報交換のひとつきを持たせていただきました。



2017年度神戸ポートアイランド4大学合同FD講演会を開催しました

2018年2月26日（月）、京都大学 高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代先生をお招きし、神戸ポートアイランド4大学合同FD講演会「ディープ・アクティブラーニングー深い学びの実践についてー」を開催しました。本学教員だけでなく、職員、他大学からも多くの方にご参加いただきました。

「アクティブ・ラーニング」というとまず技法！というイメージかと思いますが、松下先生にはアクティブ・ラーニングの技法にとらわれず、何のためにアクティブ・ラーニングを活用するのか、活用したことによってどのような効果が得られるのか、学生の学びを深めるためのご講演を賜りました。また、松下先生のご提案されている「ディープ・アクティブラーニング」について、松下先生の実際の授業デザインをモデルにお話しいただいたことで、ディープ・アクティブラーニングに対する心理的障壁も少なく、身近なものに思えたのではないのでしょうか。

参加者の皆様からは「アクティブ・ラーニングは知っていたが、ディープ・アクティブラーニングという概念は初めて知った」「アクティブ・ラーニングについての理解が深まった」、また「考えが追いつかず難しかった」と率直なお声も頂戴いたしました。

まだまだ課題も残っておりますが、アクティブ・ラーニングの実践に、また一歩近づけた講演会でした。



当機構では、今後も先生方のニーズに即した講演会、セミナー、情報交換会を開催したいと考えております。ご要望など、どうぞお気軽に全学教育推進機構事務室までお寄せくださいますようお願い申し上げます。



教育改革助成金について

本学の学士課程教育の質的向上を目的とし、教育方法の工夫改善を中心とした教育活動を奨励し、大学全体の教育改革に繋がる取組を助成するために、2014年度に創設されました。

2017年度は6件の採択がありました。

学 部	氏名	申 請 テ ー マ
人 文 学 部	立田 慶裕	eポートフォリオ活用による調べ学習とカリキュラムマネジメント教育法の開発
現 代 社 会 学 部	前林 清和	アクティブ・ラーニングの体系的プログラムおよびアクティビティの開発と作成
総合リハビリテーション学部	岩井 信彦	臨床実習科目の成績評価 ルーブリック評価による教員の評価と学生の自己評価
総合リハビリテーション学部	佐野 光彦	高等教育における講義内容の二段階要約学習による能動的学習 その簡素な汎用的方法論の確立と普及
薬 学 部	鷹野 正興	プライマリケア体験型学習による薬学部学生の意識改革
薬 学 部	辻本 貴江	薬剤師養成教育に必須の代表的8疾患の症例検討に基づくシミュレーション教育プログラムの構築

今回の助成対象の事業から明確な形で教育効果や成果が生まれることを期待しています。今後も教育における先進的な取組・事業が多数出てくることを希望いたします。

授業アンケートについて

学部別の2017年度授業アンケート実施状況を報告します。

		前 期		後 期	
		対 象 科 目 数	実 施 科 目 数	対 象 科 目 数	実 施 科 目 数
専 門 科 目	法	118	101	151	129
	経 済	92	88	106	96
	経 営	100	92	98	97
	人 文	122	114	127	106
	現 代 社 会	101	83	98	82
	グ ロ コ ミ	83	81	111	107
	総 合 リ ハ	146	124	135	124
	栄 養	97	86	78	69
	薬	95	84	89	79
共 通 教 育 科 目	828	782	827	781	
学 際 教 育 科 目	22	22	38	16	
資 格 科 目	62	54	63	56	
計	1,866	1,711	1,921	1,742	

編 集 後 記

神戸学院大学に入職してもうすぐ1年が経ちます。1年前までは「FD」というものの存在すら知らなかった私ですが、この度FDニューズレター業務をお任せいただき、手探りで進めてきた第1号がついに発行！ 全学教育推進事務グループの一員として、先生方の興味にマッチしたFDイベントや講演会を充実させていければ、と思っております。どんな小さなことでも、FDについてご一報いただくと嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。